

被災職員があらかじめ記入しておくこと

支部様式第3号

腰痛調書（被災職員記載面）

被災職員	所属	〇〇清掃組合		職名	作業員	氏名	長村 友幸	
	身長	166.5 cm		体重	58.0 kg	昭利58年 6月28日生 (39歳)	災害発生日時	
災害発生状況	概要（どのように腰部に負荷がかかったかわかるよう詳細に記入してください。）							
	中腰の姿勢で持ち上げようとしたところ、ダンスが予想以上に重かったため、体をしっかり支えようと腰に力を入れました。							
	災害発生時の姿勢（膝や腰等の曲げ具合を含めて記入してください。）							
災害発生状況	腰を曲げ、両手で衣装ダンスを持ち、膝を曲げて中腰の姿勢で持ち上げようとした。							
	アクシデントの有無（足を滑らせるなど、突発的な出来事や通常とは異なるアクシデントがなかったか記入してください。）							
腰部への負荷	前日、雨が降っていたため、路面が濡れて足もとが滑りやすい状況でした。							
	取扱重量物							
	木製の衣装ダンス							
腰部への負荷	重さ	約80 Kg		大きさ	縦 60 cm 横 80 cm 高さ 160 cm		材質	
	木製							
腰部への負荷	その他参考事項							
	なし							
上記のとおり相違ありません。								
令和5年 2月 8日			被災職員 長村 友幸			所属長 石村 俊		

災害発生状況について、具体的に記入すること

- 注1 災害発生状況は、できるだけ詳しく記入してください。
 注2 腰痛調書とあわせて、支部様式第17号「既往歴報告書」も必ず提出してください。
 注3 被災職員記載面を記載した後、主治医に腰部疾患所見書（医師記載面）の記入を依頼してください。

被災職員記載面を記入した後、医師に記入してもらうこと

腰部疾患所見書（医師記載面）

氏名	埼玉 花子	初診日	令和5年 2月 3日
傷病名	腰部捻挫	療養見込期間（初診日から）	2 か月 週間 日間 （治ゆ日 年 月 日）
主訴	腰部痛	急性症状の消退時期	令和5年3月3日
主治医所見	レントゲン等検査結果	レントゲンにて、L5/S1 椎間板腔の狭小が見られる。	
	検査所見 ※括弧内にその部位、程度を記入してください。	①腰部運動領域の制限 なし <input checked="" type="radio"/> あり（程度 中） ②圧痛 なし <input checked="" type="radio"/> あり（部位 腰部） ③神経症状 <input checked="" type="radio"/> なし あり（部位） ④筋萎縮 <input checked="" type="radio"/> なし あり（部位）	
	その他の検査所見	なし	
発症原因	⑤反射異常 <input checked="" type="radio"/> なし あり（部位）	⑥筋力低下 <input checked="" type="radio"/> なし あり（部位）	
	⑦ラセーグテスト <input checked="" type="radio"/> なし あり（右 左）	⑧大腿伸展挙上テスト <input checked="" type="radio"/> なし あり（右 左）	
いずれかに○印を付してください。			
1 被災職員記載面の動作・衝撃が直接原因となって発症したものと認める。			
<input checked="" type="radio"/> 2 被災職員には、素因又は基礎疾患が認められるが、被災職員記載面の動作・衝撃が有力な原因となって発症したものと認められる。			
3 被災職員の素因又は基礎疾患が有力な原因となって発症したものと認められる。			
4 その他（具体的に記入してください。） 〔 〕			
上記のとおり所見を述べます。			
令和5年 2月 6日		所在地	埼玉県鷹砂1-15-3
医療機関の		名称	〇〇病院
		担当医師	玉井 崎太郎